
Talent Development Special Class

松木弘也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

T a l e n t D e v e l o p m e n t S p e c i a l C l
a s s

【Nコード】

N 0 7 6 4 0

【作者名】

松木弘也

【あらすじ】

入学式。教室に現れた須築アキラを待っていたのは一匹の猫。そんな奇妙な空間で神本優衣と出会い、異世界へと飛ばされた二人そこで待ち受ける様々な事件、事故。アキラと優衣はそんな中を懸命に生き延び、再びもとの世界へ戻るための闘いを始めた――。

プロローグ

今日は入学式です。

僕の通うことになる高校は新宿駅から徒歩10分ほどのところにある。

繁華街からは少し外れたところにあり、となりには新宿御苑も広がっているので意外と緑も多い。

とは言っても、天下の新宿だ。

少しあるけばそこには色とりどりの店が立ち並ぶ。

新しい仲間とこの街を闊歩する自分の姿を想像する。

自然と笑みがこぼれる。

ここでの新しい学生生活に期待と不安を抱き、やっぱり期待していた。

そうこうしている内に自分の教室にたどり着く。

「さあ！ 新しい生活の始まりだ！」

心の中で意気込み、ドアを開ける。

「……あれ？」

教室を間違えたかな？

入学式15分前にもかかわらずそこには誰ひとりいなかった。

「おはよう……入学おめでとう」

違った。いや、違うはないか。

ただそれがしゃべるのには僕にとってはかなり違和感があった。

「わしが担任のチャトじゃ」

若干しわがれた声でそれはつぶやく

「はあ……」

さらにしゃべり続けるそれに対しまともな返事をする事ができない。

正直こんな不思議体験を自分が経験することとは思ってもよらなかった。

教卓の上にいるそれは――

猫だった。

出発

「……猫？」

その猫はどこにでもいそうな黒猫だった。

しかし、不思議な雰囲気醸し出す猫。それがしゃべったからなのか、人間のような不機嫌な表情を自分に向けているからなのかはわからない。

「何を突っ立ておる？ 早く席に座らんか」

「あつ……はい……」

このチャトと名乗る猫は自分が人間であるかのように振舞っている。

わけがわからん。

オレはこの15年間ただだ人間として生活してきただけで、こんなわけのわからん状況に順応できるだけの能力を持ち合わせていない。

大体なんで猫が担任なんだ。ここの教師達は頭がおかしいのか。それにこのクラスはなんだ。まだ誰もきてないじゃないか。しかも席が5つしかないし……。

もう考えるのやめよう。

席に座って心を無にしようとしたその時ドアが開き――

「おはようございます……あの……ここで教室あつてますよね？」

そこには黒髪を肩のあたりまで伸ばしたショートヘアの少女が立っていた。

「おはよう。ここで合つとるよ。お前さんの席はあの男のとなりじや」

「……猫？」

「わしが担任のチャトじゃ」

「……はあ」

オレと全く同じ反応を見せる少女。目が合う。

うつ……。入ってきた時にはわからなかったが、かなりかわいい。前髪を左目の上で左右に分けており、その顔から覗く瞳は夜の海を思わせる深い青。吸い込まれるような感覚に陥った。

スカートから出ている脚はオレ好みのマネキンみたいな超美脚だ。

「おはよう。これからよろしくね」

やばい。しかも何かいい匂いする。

「私は神本優衣」

「よ、よろしく。オ、オレは須築アキラ」

なんか意識しすぎてうまくしゃべれない。

一人で勝手に盛り上がっているなか、人間のように振舞う猫が口を開いた。

「じゃあそろそろ行こうかの」

笑っていた。猫の表情は誰が見ても笑顔と言えるものだった。

しかし、そこに隠れている考えまではわからない。

「入学式にですか？」

神本がそれを見て不安になったのか、自らの疑問を投げかける。

「そうじゃな」

「でも……他の人達がまだ……」

「大丈夫じゃ。もう先に行っておる」

「えっ——」

その瞬間、目の前の景色が歪む。

「なんだよこれ！」

思わず叫んでいた。

「安心しろ。目を閉じて、次に目を開けた時にはもう着いとるよ」

猫がわけのわからんこと言う。

歪みが教室全体まで広がり、もはや教室の原型は留めていない。

目の前がグルグルして気持ちが悪くなってきた——

あっ！神本さんは？

すぐに視線を横に向ける。

「えっ……」

そこには構えた拳から青白い炎を纏っている少女が立っていた。明らかにさつきとは違う雰囲気醸し出している。よく見ると印象的だったあの瞳も明るい青色に変化していた。

「神本さん……？」

「大丈夫。私かなんとかしてみる」

えっ……？えっ……？何が起こってるんだ。

教室の歪みはどんどん広がり、速まっていく。しかもその教室にはしゃべる猫と青白い炎を纏った拳持つ少女。

あー……もう……考えるのやめよう。

そしてオレは目を閉じた――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0764o/>

Talent Development Special Class

2010年10月10日18時08分発行